

とみけいニュース

発行 第75号

発行元
富山経済会

発行日
2026年8月5日

編集



2026年度 会長挨拶

株式会社 竹勘 竹内 信善

このたび、富山経済会会長を拝命いたしました竹内信善です。長い歴史と伝統を持つ本会の会長という大役をお引き受けするにあたり、大きな責任を感じるとともに、会員の皆様と新たな一歩を踏み出せることを大変光栄に思っております。

これまで富山経済会は、多くの先輩方の情熱と努力によって支えられ、異業種の経営者が学び、語り合い、互いに切磋琢磨する場として発展してまいりました。その歩みに深く敬意を表するとともに、その歴史を大切にしながら、時代にふさわしい魅力ある会づくりに取り組んでまいります。

現在、私たちを取り巻く環境は、人口減少や人手不足、急速に進むデジタル化やAIの普及など、大きな変革の時代を迎えています。このような時代だからこそ、経営者は一人で考えるのではなく、仲間と学び、語り合い、新たな知恵や価値を生み出していくことが大切だと考えています。私は、「人と人とのつながり」を何よりも大切にしたいと思っています。経済会は単なる交流の場ではなく、互いに刺激を受け、励まし合い、それぞれの企業の発展、そして地域の活力につながる場であってほしいと願っています。また、若い経営者や次世代を担う皆さんにも積極的に参加していただき、新しい発想と挑戦が生まれる開かれた経済会を目指してまいります。伝統を守りながらも変化を恐れず、新しい時代にふさわしい活動を皆様とともに築いていきたいと思います。「参加してよかった」「仲間ができてよかった」「学びがあった」と、一人でも多くの会員の皆様に感じていただけることが、私の願いです。

富山経済会の未来は、会員の皆様お一人おひとりの力によって築かれます。皆様との対話を大切にしながら、誰もが誇りを持てる経済会を目指し、精一杯努めてまいります。

今後とも、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます

新会員紹介

よろしくお願いします!



名鉄観光サービス株式会社
支店長
吉野 崇 氏



株式会社 PUBUP
代表取締役
島田 光浩 氏



株式会社 寿屋
本部長
本間 義康 氏

令和8年6月3日(水)富山経済会第 992 回定例会

演題：移住者から見た富山と黒部源流の自然と山小屋の暮らし

講師：山と旅のイラストレーター・エッセイスト 大和 景子 氏



私は愛知県出身ですが、長年東京で暮らした後、「死ぬまで東京にはいたくない」と思い、自分が大好きだった富山県へ移住しました。現在は黒部川源流部にある薬師沢小屋で働いています。薬師沢小屋は、黒部ダムよりさらに奥地の黒部川源流域、標高約 1,900 メートルにある山小屋です。登山口から 5～7 時間ほど歩かなければたどり着けない場所で、夏の間は多くの登山者を迎えています。

美術大学を卒業後、絵を描きながら世界を旅してきました。山小屋で働いて貯めたお金を持ってアフリカや南米、ヨーロッパなどを巡り、スケッチを描きながら暮らしていました。現在もイラストレーター・エッセイストとして活動しながら、山小屋の支配人を務めています。富山に移住して感じた魅力は、何ととっても自然の豊かさです。山があり海があり、水がおいしい。お米も魚もお酒もおいしく、これほど恵まれた環境はなかなかありません。また新幹線の開通によって東京との距離も近くなり、地方に住みながら仕事ができる時代になったことも大きな魅力だと思います。一方で心配なのは、中山間地域の人口減少です。農業の担い手不足は深刻で、このままでは富山の田んぼや農村風景が維持できなくなるのではないかと危機感を持っています。山小屋での暮らしは決して楽ではありません。水は沢から引き、電気は発電機、物資はヘリコプターで運びます。野菜一つ無駄にしないよう工夫しながら保存し、お客様を迎え、登山道の整備や草刈り、布団干しなども大切な仕事です。



自然災害も身近で、大雨による鉄砲水や増水、台風による建物被害など、自然の脅威を日々感じながら生活しています。さらに登山者の遭難対応や救助活動に関わることもある一方で、黒部川源流の美しい自然や豊かな生き物たちに囲まれて暮らせることは大きな喜びで、イワナやライチョウ、ヤマネ、そしてクマなど、多くの生き物たちがこの環境の中で生きています。

私は山や川で過ごすことを通して、人間の暮らしが自然と深くつながっていることを実感しています。富山の自然は県民の財産であり、日本の財産であり、地球の財産でもあります。この素晴らしい環境を次の世代へつないでいくことが大切だと考えています。

